民主こうべ政策議員団　川原田弘子ニュース

ひろこだより VOL．1

２０１４年４月号

～予算市会の審議から～

王子動物園に行ってきました！
冬と夏は、比較的ゆっくり回れますよ。兵庫県内在住の６５歳以上又は中学生以下は無料です！！

ハーイ！？
昨年 11 月に生まれたジャガーの双子です。よろしく

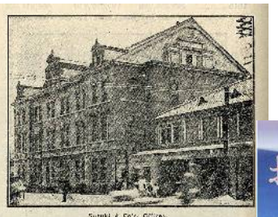
～「お家さん」の物語を活かしていこう～

皆さん、「お家さん」をご存知ですか？作家の玉岡かおるさんの小説で、明治・大正・昭和と一時代を築いた神戸の鈴木商店の女主人、鈴木よねを描いた物語です。小説「お家さん」は、織田作之助賞を受賞し、その後、竹下景子さんを主人公に迎え舞台化、更に、天海祐希さん主演でドラマ化が行われ、４月から放送の予定です。

残念ながら鈴木商店自体は倒産となりましたが、今でも神戸製鋼や帝人といった日本を代表する企業にその流れが受け継がれています。すべてにわたって神戸が舞台となっており、港や貿易で発展を遂げた神戸の魅力が詰まった物語です。

神戸市としても「お家さん」を研究し、物語を活かした観光の取り組みができないか、質問しました。

ピッコロ劇団　舞台「お家さん」



鈴木商店
（英和日本商工人名録より）

久元市長答弁：「お家さん」については、関係者からぜひ見に来るようにと言われたが、上演期間が3日間と短く、見に行くことができなかった。DVDなどで見て、実際にどのように神戸のどこのスポットが使われているかなど、これから研究していき、観光客誘致に役立てるように取り組んでいきたい。

＜舞台を鑑賞された玉田副市長に感想を伺いました。＞

玉田副市長答弁：原作も読んでいたが、神戸に深く歴史を刻んだ商社、鈴木商店について今の若い人はあまり知らない。指摘されたように、神戸製鋼や帝人などに跡を残しているわけだが、物語の舞台となった所で今見られる所は少ない。しかし、物語としては、神戸で生きた先人の歴史なので、非常にいい題材なのではないかと思った。主演の竹下景子さんも、震災後ずっと語りをやってきた方であり、これも新しいとっかかりになるのではないか。非常に面白い題材として研究できると思う。

鈴木商店

かつて神戸で栄えた日本の財閥、商社。

１８７４年（明治７年）鈴木岩次郎が当時番頭をしていた洋糖引取商「辰巳屋」の暖簾分けで、神戸の弁天浜に個人商店「カネ辰・鈴木商店」を開業。

１８９４年（明治２７年）岩次郎が死去。夫人のよね（後に「お家さん」と呼ばれる）が金子直吉と柳田富士松の両番頭に委任し事業を継続。

鈴木商店の金子直吉は「財界のナポレオン」、「煙突男」と呼ばれ、約８０社もの製造事業、サービス業を立ち上げ、その中には神戸製鋼所、帝人、双日、ＩＨＩ、日本製粉、Ｊオイルミルズ、三井化学、サッポロビール党が含まれている。

第一次大戦に乗じて大いに発展し、全盛時代の売り上げは、三井物産や三菱商事をはるかに上回る１６億円（当時の日本のＧＮＰの約１割）に達した。

１９１８年（大正７年）８月１２日、富山で発生した米騒動は全国に拡大し、急激に発展した新興財閥である鈴木商店に対して、「米の買い占めを行っている悪徳業者」との風評により、米価の高騰に苦しむ民衆２万人が殺到、神戸市中央区相生町にあった本社を焼き討ちされる。

１９２７年（昭和２年）の金融恐慌の中、鈴木商店は破たん。しかしながら、鈴木商店関連企業は、今でも活躍し鈴木商店の魂は、現在に引き継がれている。

～舞台「お家さん」パンフレットより～

いじめ、不登校に対応する人材拡充について

いじめ・不登校対策については、今年度予算でも各中学校区単位での地域住民も巻き込んで開催されるいじめ防止小中地域会議のほか、ネットでのいじめによる書き込みなどの監視、また、新しくスクールソーシャルワーカーも配置されることになりました。

しかし、いじめは何よりもまず、未然防止が重要であり、なおかつ、もし発生した場合は、いじめを受けた児童に寄り添い、一緒に解決の道を探る、そういう立場の大人が身近にいることが必要です。

国の通知にも、いじめの防止等の対策に従事する人材の確保等が基本的な施策として記載されています。

多忙な教職員をサポートする生徒指導の担当教員の配置を進めていくべきと考えます。現在、神戸市では人員の配置について権限がないですが、平成 29 年度より県の権限が移譲されるという点も踏まえ、見解を伺います。

支援員を増やすといった事については、大事なことであり、教室では、全員が授業を分かっているという訳ではないので、もう一人の先生がわかるように丁寧に指導していくことは、非常に重要だと思いますが、時間で雇われた方々である以上、時間が来れば帰ってしまうということになります。

生徒指導の担当とは、不登校になれば家まで迎えにいったり、いじめがあれば遅くまで残って相談にのったり、という人です。

そういった生徒指導の担当教員が中学校に各中学校に配置されているが、小学校はまだ全然配置されていないので必要と思います。

平成 29 年度から権限移譲が始まるので、認識していただきたいという事を要望します。

雪村教育長答弁：ご指摘のとおり、いじめの対応は未然防止が重要である。そこで、神戸市では、かねてより、生徒指導担当教員や不登校担当教員等をはじめ加配教員を小中高等学校に配置してきた。

また、小学校には、「学校相談員」「生徒指導推進協力員」を８校に配置して、児童たちを見守ることで、いじめや問題行動の未然防止を図ってきた。

来年度から、新たに「学ぶ力・生きる力向上支援員」を小中学校に配置したい。配置校数を、今年度 75 校から 80 校に増やすとともに、勤務時間を週 14 時間 30 分または週 29 時間に拡充したい。

この支援員は、教員免許状を有する者としており、学級担任や教科担任と連携して、少人数指導等の学習指導を行うとともに、いじめの未然防止、規範意識の向上を図るために、問題行動が見られる児童生徒への個別対応や生活指導をより一層きめ細かに行っていく。

平成 29 年度に教職員の給与負担等に係る権限が道府県から指定都市に移譲されることとなっているが、財政枠が拡大するものではないことから、教員の大幅な増員をすることは難しいと考えている。ただ、権限移譲により教職員の配置の仕方や活用の面で裁量の幅が増えることにはメリットがある。例えば、生徒指導担当教員を重点的に配置するであるとか、優先順位の点で裁量の幅が増えることはメリットがあるので、具体的にどのように活用していくかを、よく研究をしてまいりたい。

在宅医療の環境整備・人材確保について

在宅医療を進めていくためには、人材の確保とともに、訪問診療を可能にする環境整備も重要です。一人の患者に対して情報を共有し、管理してく仕組みも必要。特に退院後すぐに、在宅治療や介護となる場合、元の病院との連携も重要。在宅ケアを進めるにあたっての環境整備、人材確保について伺います。

玉田副市長答弁：退院後の連携については、介護・医療関係者・行政で構成する地域包括ケア推進会議のなかで連携シートの活用など、情報共有の手段や退院支援のルールなどについて検討を行っている。国の「医療・介護サービスの提供体制改革のための新たな財政支援制度」の中で、都道府県単位で基金を設けることとしており、医療従事者等の確保・養成やサービスの充実を推進することが想定されている。今後、本市としても、基金を活用できるよう国・県に要望していきたい。

いきなり在宅医療に傾くような制度にしようとしており、看護師不足の状況で本当に大丈夫なのかと危惧していますが？

久元市長答弁：かつて看護師であったが退職をして家にいる方が多くおられる。もう一度職場に復帰してもらうためには、子育ての環境をしっかり作っていくことが職場復帰に有効だと考える。保育士についても、介護士や介護に携わる様々な方についても同様。子育てについて、平成 26 年度の予算においても力を入れている。女性が働きやすい環境を作っていくために、特に保育所の整備や小規模保育の充実について、神戸市としてしっかり行っていくことが大きなポイントだと考えている。看護師の職場復帰は、熱心に取り組んでいる看護協会とよく連携していく。

看護師募集の啓発チラシです

市長が公約どおりに待機児童の解消や学童保育の過密解消に取り組まれており、評価しています。医師会の女性の先生方からも、「今、大学の医学部は半分が女性。女性が働く環境をきちんと作らないと医師不足へとすぐにつながる状況」と警鐘が鳴らされています。併せてお願いしたい。

〒655-0034　神戸市垂水区仲田 3-1-8-202
（垂水支部）　神戸市会議員　川原田弘子事務所
TEL&FAX　078-709-8998
e-mail；happy@hiroko-club.com
URL；http://www.hiroko-club.com

ご相談はこちらに

〒650-8570　神戸市中央区加納町 6-5-1
民主こうべ政策議員団
TEL　078-322-5844
FAX　078-322-6161